

ゆめゆめ

2020年3月18日(木) No.71



【発行】社会福祉法人 くるみ福祉会
〒582-0026

大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目13番82号

TEL:072-978-3080

MAIL:yume-kurumi@viola.ocn.ne.jp

URL:kurumi-fukushikai.net

<発行責任者> 管理者 北丸 浩一

安心して通える事業所に取り組む

『3.11』。世界的にも類を見ない未曾有の災害として未だに多くの方に影を落としている。東日本大震災。あれから十年という節目を迎えた昨今、復興」といってはほど遠いのが現状のようです。

先日東北で起こった震度6弱の地震は『3.11』の余震とのこと、その時のインタビュアーでは『今回の方が酷かった』という方もおられ、トラウマ的な爪痕は根強く残っていると感じました。

一方、これもまた世界的規模で巻き起こっている新型コロナウイルスは、この一年での猛威は凄まじく、増して新型株の変異ウイルスが幾多と増殖していく様は、今後の生活様式を根本的に変えてしまふほど恐ろしく、終焉が見えてこない現在、私たちは今後どう生きていくのか深く考えさせられます。

激動の年を振り返る中で、地域の方々や利用者、ご家族に対してのくるみ福祉会の役割如何を考えた時、ただただ地道な努力の積み重ねを毎日繰り返すことで一年が過ぎ去ったといえます。

登所後、玄関での手指消毒から始まり手洗いが、マスクの着用、密を避けての分散床の改装、送迎車両や施設内の消毒、食事場面での机の配置、歯ブラシ置き場の改装。そして降所する際の手指消毒で完了します。『コロナウイルスを含めインフルエンザも発症させない取り組みは、小さなことの繰り返しですが何より大切です。利用者さんにとって安心して事業所を利用することができるのは、より安全な取り組みを常に心がけていくことに繋がっているものだと考え、また何よりも大切なことだと痛感しています。』

利用者さんを守ることに、感染拡大させないことは地域の方々への安心にも繋がりますが、反面、事業所の運営はコロナ禍が続く限り常に緊迫した状況です。いつもの紙面では将来展望を年度当初に掲載して行くつもりですが、今回に限っては大きなことは言えません。地道に努力して安全を担保すること。そして、その先に見えてくるものを期待し、より以上、頑張りを続けねばなりません。

管理者 北丸浩一

より安全な環境のために...

2度目の緊急事態宣言が発出され、藤井寺保健所感染症対策チームに感染防止対策の視察をお願いしたところ、2月5日に感染管理のスペシャリストである大阪はびきの医療センターの感染管理認定看護師の方と一緒に視察してもらうことが実現しました。

家庭でも参考になるアドバイスも多く、特に手洗い、歯磨きなどで使う水回りにつ

いての意見は大変参考になりました。感染防止では3密を防ぐことが原則ですが、人との関わりにはとても大切な要素でもあります。助言いただいたことに工夫とアイデアをプラスして、支援員を身近に感じてもらいながら安心して過ごせる感染防止対策をしていきたいと思ひます。



皆さんの努力と我慢の先に

昨今の今頃は新型コロナウイルスについて知らないことも多く、感染収束もそれほど遠いものとは感じていませんでした。昨年3月発行のゆめゆめを読み返してみると新型コロナウイルスの国内陽性者数は829名と書いていましたが、現在は実に累計4万1千472人(2月15日付)となっています。この状況は我々の想定を超えるもので、昨年度の皆さんとの活動に大きな影響を与えました。楽しみにされていたほとんどの行事が中止となり、作業の買い物や納品等、普段の活動も出来ませんでした。現在もなお、週末の買い物や外食、カラオケなどの外出も極力控え、とても窮屈な毎日が続いています。我々職員も面談やケース会議、研修などで直接の会話ではなく、密をさけるため電話や画面越しで話をする機会が増えました。これは対人援助職の我々にとって、顔を向き合っていることをすることの大切さを再認識する機会となりました。細やかな表情、体全体の連動する動き、その場の空気感、気温、湿度の変化など「現場」でなくては伝わらないものがあることは利用者さんとの関わりの中で日々職員が実感していることです。コロナ禍にあり、マスクをしていて表情や口の動きが見えなくてもわかる伝え方、距離をとって座ついても身近にいるような安心感、ゼスチャーがなくても伝わるスケール感など職員員の伝える力はこの状況の中で意図せず鍛えられたように思ひます。

令和2年12月15日に空世代型社会保障改革の方針」が発表されました。その中で全世代型社会保障改革の基本的考え方として「習内閣が目指す社会像は、『自助・共助・公助』として『絆』である。まずは自分でやってみる。そうした国民の創意工夫を大事にしながら、家族や地域で互いに支え合う。そして、最後は国が守ってくれる、セーフティネットがしっかりとある、そのような社会を目指している。」と記されています。「国が最後」という考え方に我が国の社会保障のあり方を考えさせられます。

この一年、利用者のみならず私も我慢を重ねてきました。家族の方の支えもあり、ともに通う、暮らすみんなのために買い物や外食、外出を控え、マスクをして「うつらない」よりも「うつさない」を意識して控えていました。自分の努力(自助)、家族の支え(共助)の役割は充分に果たしておられたと思ひます。新型コロナウィルスの収束が見通せない中で、新年度も我慢の積み重ねかもしれません。まず国(公助)が先頭に立つて感染拡大を食い止める姿を感じられることを願ひしつつ、一刻も早く皆さんと笑顔で外出できることを願ひ、我々も努力を積み重ねていきたいと思ひます。

サービス管理責任者 大月篤

休日開所お楽しみいろいろ

その① エコバック作り

12月19日の土曜開所日は、「コロナ禍でストレスをかかえている利用者に対して日々工夫して喜びや楽しみを感じていただけることを目的」とする、「大阪生活サポート協会」による『エンジョイ助成』を受け、シルクスクリーンキットを使ったエコバック作りをしました。自分で考えたデザインや好きなキャラクターをパソコンに取り込み、思い思いの場所にプリントし世界に一つだけのエコバックが完成しました！

外出できない、好きな買い物に行けない不自由な暮らしの中で、自分のお気に入りのバックを手に入れた皆さんの笑顔を見ると買物や外出の代わりになる満足があったように思いました。次はTシャツやトレーナーなど、自分の好きなものを身に付けてもらえるような企画を考えたいと思います。お楽しみに！「大月」



その② 初詣&お雑煮作り

1月23日、こんな時でも新年らしい雰囲気を感じて頂けたらという思いで、事業所内での雑煮・おぜんざい作りをするグループと、檀原神宮への初詣に出掛けるグループに分かれての企画でした。どちらも万全のコロナ対策をした上での実施で、色々な制限もある中での取り組みとなりました。

事業所内での調理グループでは、お餅の代わりにジッパー袋を使ったきりたんぽ風ごはん餅を作り、マスク越しにでも伝わる素敵な笑顔がたくさん見られ、「良い香り〜」とお鍋をのぞき込まれる方もいました。

お出かけグループも、今年は特に人の少ない檀原神宮でしたが、参拝や敷地内の散歩など、短い時間でしたが貴重な外出の機会を思い思いに楽しまれていた様子でした。来年の初詣は、何の心配もなく来られることを願うばかりです。「石原」

その③ アウトドア飯 & 新喜劇

2月6日は「寒い中での暖かいアウトドア飯は美味しさ3倍！」をぜひ皆さんにも味わって頂きたいとの思いから、南港でホカホカの肉まんとかップヌードル、塩おにぎりを食べる取り組みを企画しました。

当日は気温が高く気持ちの良い気候の中でアウトドア飯を食べることができ、寒い中での…という当初の思惑は外れましたが、アウトドアの楽しさを感じて頂けたと思います。

もう一つの企画は、大型スクリーンでの新喜劇鑑賞です。テレビでは味わえない臨場感あふれる笑いに皆さん声を出して大笑いされていました。コロナ禍でストレスが溜まっている中、笑いでストレスを解消できたように思います。

コロナ禍で満足に外出ができず、運動不足やストレス発散ができない状況が続いています。そんな状況だからこそ、笑顔を大切にできるような取り組みをこれからも企画していきたいと思えます。「小林」



あっと・ほーむ

~新しい利用者さんご紹介~

◆ つぼみ Aさん ◆

2月から体験利用を開始されたAさん。どの利用者さん・職員とも「初めまして」からのスタートで、緊張大！人間関係や生活スタイルが一変し、気持ちの切り替えも大変だったことでしょう。

短い期間でたくさんの経験を重ねられた今では、たくさんの笑顔を見せて下さり、「一緒に行こう！」「これ手伝うわ！」などご自身からの言葉も増えています。歌とドリフと冗談が大好きなAさん。これからも、ホームでの生活を一緒に楽しみましょう♪ 担当:西下

◆ わかば Bさん ◆

2月から新しい仲間が増えました。以前からショートステイを利用されていたこともあり、余暇時には大好きなCDやDVDを観て表情良く過ごされており、新生活は順調にスタートしました。でも、まだまだ家が恋しいようで、帰省される日には大好きなDVDをカバンいっぱい詰め込んでおられます。

少しずつホームでの生活も楽しんでもらえるようお手伝いできればと思っていますので、これからよろしくお願ひします。 担当:木下

■令和2年度を振り返って…

この一年、本当に今までに経験したことのない日々でした。常時マスクをつけるのが当たり前になるなんて、今までには考えられないような日々…。くるみの森も出店販売が続々と中止になり、納品や買い物など屋外作業は職員だけで行ったり、毎年恒例の繁忙期後のお出掛け企画ももちろん中止になりました。

そんな中でも少しでも利用者さんたちに喜んでもらえるようにと、商売繁盛祈願の初詣は時期をずらして人の少ない場所に行ったり、外食企画はテイクアウトに変更したり、買い物企画はネットショッピングに変更したりと、出来る限りの感染対策を取りながら事業所内でできる企画をいろいろと考えました。今までの企画とは大きく変わりましたが、それでも皆さん楽しそうに参加して下さっていたことが何よりも私たち職員の支えとなりました。

とはいえ、まだまだ先が見えない状況で、中止や規模の縮小などを行っているイベントも多いため、私たちも販売のカチを見直す必要があると思います。郵便局のふるさと小包のセット販売で培った経験を活かし、今後は直接販売に来ていただくことが難しい方にも商品をお届けできるようなカチを考えていけたらと思っています。

そして、今年度誕生した赤ワインパウンドをきっかけに、柏原市のふるさと納税返礼品にも挑戦させていただく予定ですので、今後もくるみの森の活動を温かく見守っていただけますようよろしくお願いいたします。



柏原ワインを使った
赤ワインパウンドケーキ



『読売 光と愛の事業団』様より助成金を頂き、クッキー手動カッターを購入させていただきました。

※3月11日付読売新聞に記事が掲載されました！
詳細は次号ゆめゆめにて



ご報告させていただきます。

販売予定[令和3年4月～6月]

- サラヤ大阪工場販売 (柏原市玉手町)
令和3年4月6日(火)、5月11日(火)、6月1日(火) [12:30～13:00]
- 柏原市社協販売 (健康福祉センター オアシス 3階ロビー)
令和3年4月13日(火)、5月18日(火)、6月8日(火) [12:00～12:45]
- 柏原市役所販売 (地下食堂前)
令和3年4月27日(火)、5月25日(火)、6月22日(火) [12:00～12:45]

新職員の紹介

夢工房くるみ
生活支援員
松中直子さん

利用者さんが楽しく働き
過ごして頂けるよう、気持ち
に寄り添いサポートさせて
頂きたいと思います。
これからよろしくお願いいたします。

くるみの樹
生活支援員
紀平由美子さん

3月からお世話になって
ます。初めての経験です
が、皆さんが毎日笑顔で
過ごせるように努めて
まいります。よろしく
お願いします！

くるみの樹
生活支援員
梅田雄司さん

初めまして。この仕
事は初めてでこれか
ら頑張っていくので、
宜しくお願いします。

くるみの樹
世話人
福山和美さん

初めまして。今まで別の業界
で仕事をして、今回この業
界は初めてなので皆さんに
ご指導頂きながら新たな気持
で頑張りたいと思います。
よろしくお願いいたします。

くるみの樹
生活支援員
高野みよ子さん

宜しくお願い
致します。

くるみの樹
世話人
武井照代さん

性格はおっとり・中肉中背
の66歳の人が大好きな武
井です。趣味は旅行。今、
コロナ禍でどこも行けな
いのが残念です。今後と
も宜しくお願い
致します。

退職した職員

<グループホームくるみの樹>
◆世話人 西川保子さん
◆生活支援員 坂本一貴さん

お世話になりました。ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました!

<寄付金>

◆12月14日 中辻 登美子様 ◆1月、2月、3月 匿名様

<寄贈品>

◆毎月 根っこや様【米ぬか】 ◆12月22日 匿名様【お野菜】